

カルチャーショックの威力

Topics

- 1 センター長よりメッセージ:
カルチャーショックの威力
- 2 インターナショナルキャンプ
2015 報告
- 3 桐生・ビジネス日本語/日
本ビジネス教育
- 4 Jプログラム報告(その2
課題研究)
- 5 英語短期研修報告:サン
ディエゴ州立大学
- 6 留学フェア 2016
- 7 群馬大学サマープログラム
2016

新入生の皆さんの中には、群馬での大学生活を始めて既にカルチャーショックを経験した方もいらっしゃるかもしれませんが、国内でも地域による文化の違いに驚くことがあるのですから、外国で出遭うカルチャーショックの大きさは容易に想像がつくと思います。その大きなショックをぜひ留学で直に体験してください。

私自身留学したイギリスでは様々なカルチャーショックを経験しました。授業では、教師をさしおいて激しく意見を戦わせ続けるクラスメートに圧倒されたり、レストランでは、欧米人優先でいつまでも注文を取りに来てもらえず昼食をたべそこなったり(30年以上昔です)、受け身の姿勢で待っているはそこにいないも同然とみなされる文化なのだと悟りました。どちらが良い悪いという問題ではなく、「異なる」文化なのです。

人はカルチャーショックで揺さぶられます。揺さぶられ、こだわりや狭い考えや自分で自分にはめていた「枠」が消えて無くなると、多様な考え方や知識を伸び伸びと吸収できるようになるのです。留学で人が大きく成長する理由はここにあります。また、ショックを受けながらも、なぜ考え方が違うのかを考え、互いの文化的背景を理解しながら交流する真のコミュニケーション力も身に付くことでしょう。これは、多様化する世界で外国語習得以上に重要なスキルかもしれません。

留学はちょっと難しいという皆さんにも群馬大学のキャンパスでカルチャーショックを体験していただく機会を今後作っていきたくて考えています。どうぞ気軽に参加してください。

国際教育・研究センター長 末松美知子



▲英国・キール大学



▲米国・サンディエゴ州立大学



▲中国・海南大学

群馬大学は世界各国 120 近くの大学と協定を結んでいます。英語研修や、異文化研修など短期で気軽に参加できるプログラムもあります。ぜひ、カルチャーショックを体験してみてください。

インターナショナルキャンプ 2015



留学生と共に過ごし、群馬の魅力にも改めて気づいた2日間でした。

【1日目】群馬大学→みなかみ町→ラフティング→マイク・ハリス氏講演会→入村式(農家との対面式)→民泊

【2日目】民泊→離村式(午後)→田園プラザ川場→群馬大学

2015年8月31日から9月1日にかけてインターナショナルキャンプが行われ、日本人学生17名、留学生21名が参加しました。今回はみなかみ町で利根川ラフティングと農家での民泊を体験しました。

初日は英語で自己紹介をしながら、みなかみキャニオンズに移動しました。ラフティングは、1つのボートに6~8名乗り、全員で協力して漕ぎながら利根川の激流や渓谷美を楽しみました。昼食後はキャニオンズ代表のマイクさんに、みなかみの自然資源の価値とそれを活かしたビジネスについての講演をしていただきました。

今回の宿泊先は農家です。3~6名ずつ分かれて各農家で野菜の袋詰め・うどん作り・餅つき・温泉などを体験しました。宿泊先の家族から地域の伝統や生活様式についても学んだようです。学生は家族の皆さんに温かく受け入れられ、2日目にはいつまでも別れを惜しむ姿が見られました。

今回のキャンプでは、留学生だけではなく日本人学生からも「群馬の魅力に改めて気づいた」という感想が聞かれました。様々な活動を通して学生同士の仲も深まり、普段あまり会うことのない学生と交流する貴重な機会にもなりました。来年もぜひ多くの学生に参加してほしいと思います。

国際教育・研究センター講師 古川敦子/Sylvain Bergeron

桐生・ビジネス日本語／日本ビジネス教育

群馬大学では、日本語学習経験のない初級者から日本企業・日系企業への就職を望む上級者まで、様々な日本語レベルの留学生が学んでいます。国際教育・研究センターでは桐生キャンパスにて、レベル別の4コース(初級前半/後半, 中級前半/後半)に加え、ビジネス日本語コース(上級)を開講しています。ビジネス日本語コースでは、前期にビジネス会話とメール等のライティングスキルを学び、後期にビジネス日本語テスト対策とプレゼンテーションスキルを身につけることを目標としています。

また、大学院理工学府では、博士前期課程の留学生と日本人学生を履修対象とする技術マネジメント系科目「ものづくりビジネス」(集中講義)が開講されており、国際教育・研究センターが講義コーディネートをを行っています。近隣の企業と連携して行われる講義は、企業で活躍されている方を講師としてお招きし、オムニバス形式で行われます。企業独自の技術力を実際に学べる工場見学の時間も設けられています。本講義は、企業の求める人材育成を目的としたビジネス日本語教育・日本ビジネス教育の場であると同時に、留学生と日本人学生が机を並べ議論し、共に学び合える場ともなっています。

国際教育・研究センター講師 船橋瑞貴



日本企業への就職を目指し、ビジネス日本語を学んでいます。

Jプログラム報告～その2:課題研究

今回は日本語や日本文化など日本研究を専攻する日研究生や交換留学生を対象にしたJプログラムの「課題研究」についてお話しします。プログラムの後半(4月～9月)、学生は、自分の研究テーマに沿って調査を行い、その結果を発表し、論文にまとめます。これを「課題研究」と呼びます。学生の所属する学部の指導教員とセンターの教員が協力して、学生の研究指導に当たります。「課題研究」がプログラムに組み込まれたのは2008年度(2008年10月～09年9月)からです。当初は2名の学生が取り組んだ「課題研究」も7年を経た2014年度(2014年10月～15年9月)には11名へと増えています。

これまで母国では日本や日本語に関する資料が少なく困っていた学生も、この留学により、有り余るほどの日本語の文献や資料を前にしてどこから手を付けていいか戸惑うことも多々あったようです。8月上旬に課題の内容を簡潔にまとめた研究報告会を実施します。学生は自分の「課題」についてスライドを作り報告をします。その時には温かい言葉をも

らう学生も、辛辣なコメントを受ける学生もいます。そして、研究報告会のコメントなども考慮して、学生は9月上旬までに論文を仕上げます。プログラム最後の1ヶ月、課題・旅行・帰国など、学生たちの様々な姿がそこにはあります。

国際教育・研究センター准教授 野田岳人

▼8月上旬に行われる研究報告会。課題研究の内容を簡潔にまとめて発表します。



2014年度Jプログラム課題(「研究テーマ」と(氏名))

- 【日本語:5編】●「日本語とモンゴル語における使役文の解釈」(ムンフジャガル・ヤラルト) ●「インドネシア話者に対する日本語の子音の「つ」の発音エラー分析」(ラフマワティ・エカ・プラティウィ) ●「スリランカ人日本語学習者の助詞「は」と「が」の誤用分析」(チャマーリ・ハンサニ) ●「日本語の語彙の学習に対する、Inside Outside Circle メソッドの効果」(ハヤナー) ●「漢字の学習」(クラウディア・克蘭ツ)
- 【日本文学:1編】●「三島由紀夫の『金閣寺』」(モルナール・ゲルグー・アダム)
- 【日本社会・文化:5編】●「ゆるキャラに関する一考察」(武陽) ●「上毛かるたの成り立ちと歩み」(夏嘉芬) ●「日本人は、どのような人に対して、敬意を払うのか」(ピンディラー・ポムマラック) ●「日本の会社」(ターゲオー カモンティップ) ●「ブラジルと日本」(マルセロ・ダ・クルス・ナシメント)

短期英語研修報告:サンディエゴ州立大学

2016年3月、アメリカ・サンディエゴ州立大学(SDSU)英語研修プログラムに17名の学生が参加しました。

期間は3週間、大学に併設される語学学校に通いながら、ホームステイを行うプログラムです。現地の人と交流し、語学とともに文化も体験的に学びます。また、サンディエゴ州立大学で日本語を学ぶ学生と交流する機会もあり、日本語や日本文化について再認識することができます。さらに週末はホストファミリーと出かけ

たり、近隣都市まで小旅行をしたりして過ごし、多くのことを経験できたようです。

渡航までには、交換留学を終えて帰国した先輩やSDSUから群馬大学に留学している留学生との交流、English Workshop、ビザの手続きや危機管理オリエンテーションなど4回の事前研修を行い、準備をすすめました。今回のプログラムでは、JASSO(日本学生支援機構)から8万円の奨学金が支給され、所定の条件を満たした学生には選択英語の単位が付与されました。

国際教育・研究センター講師 大和啓子

お知らせ 留学フェア 2016 荒牧地区



全体講演の他、ブースで留学プログラムの情報や先輩の体験談を個別に聞くことができます。

学生時代に海外で勉強してみませんか。群馬大学では、春と秋の2回、留学フェアを行っています。

留学フェアでは、群馬大学の協定校のプログラムを紹介するほか、留学を経験した社会人や先生の体験談、また、前年度にプログラムに参加した先輩たちの生の声を聴くことのできる機会となっています。

英語学習の相談や留学エージェントによる相談ブースも設置しています。留学フェアは誰でも参加できますので、気軽に参加してください。2016年度は4月下旬～5月上旬に荒牧キャンパスミュージックホールで行う予定です。詳しい日程等はポスター、国際教育・研究センターホームページでお知らせします。

国際教育・研究センター講師 大和啓子

お知らせ 群馬大学サマープログラム 2016

G U N M A UNIVERSITY SUMMER PROGRAM 2016.7.5-14

英語の講義を留学生と一緒に受けてみませんか。研修旅行や交流会にもぜひ参加してください。

群馬大学国際教育・研究センターは、2016年7月5日から14日までの10日間、本学交流協定校に在籍する学部学生及び大学院生を対象に、日本語学習・日本文化体験のための集中プログラムを開講します。これは、特に英語圏の交流協定校の学生が日本語のレベルなどの問題から群馬大学に半年以上の期間の留学を行いにくいという状況を考慮し、日本語の能力が初級レベルの学生でも参加できるようにと実施するものです。

プログラムは日本文化に関わる英語による講義、日本語学習、書道・茶道・邦楽等の伝統的な日本文化体験を中心に構成され、その他にホームステイ、研修旅行も計画しています。また、講義や研究室訪問、研修旅行などを通じて日本人学生との交流の機会も用意しています。

なお、群馬大学の学生の視野を広げるため、日本人学生にも英語による講義や研修旅行を開放します。海外の学生と自由にディスカッションを行える貴重な機会になると思います。また、研修旅行に参加することで、異なる文化的背景を持つ留学生と交流を図り、より広い視野を得られることでしょう。

群馬大学の日本人学生のみ皆さんの積極的な参加を期待しています。

国際教育・研究センター准教授 牧原功

群馬大学の国際交流・留学に関する情報はホームページでもお知らせしています。

群馬大学 C I E R

<http://www.cier.gunma-u.ac.jp/>

国際教育・研究センター Center for International Education and Research
荒牧キャンパス・大学会館 2-3階、桐生キャンパス・7号館 5階